

# 市立函館博物館 友の会々報

No. 63

## モースの見た函館

会員 鶴沼ワカ

### 1. モース(1838~1925)について

明治10年に来日したアメリカの動物学者であるモース(Edward.S.Morse)は、大森貝塚の発見者として、また我が国にダーウインの進化論を初めて伝えた人として広く知られている。



教官不足の東京大学で2年間の動物学教授を頼まれ、教育博物館嘱託なども歴任した。モースの日本での行動は、『Japan Day by Day』(日本その日その日)に詳しく記載され、これは当時の日本の様子を知る貴重な資料となっている。モース

が描いたスケッチなどにより当時の函館の様子や函館と関わったモースの足跡を紹介したい。

### 2. モースの北海道旅行

モースは矢田部良吉、種田織三他5名と共に明治11年7月13日、北海道標本採集旅行に横浜港を出発し、7月16日函館に到着した。さっそく開拓使函館支庁を訪ねる。

西郷従道文部大臣、黒田清隆開拓長官からモース一行待遇依頼の書簡が函館支庁に届いており、モースの願い通りに臨海実験所、標本採集用の蒸気船とかき網舟が用意された。その上、7月18日には函館支庁より博物学修行のために役人二人を矢田部に従属させる願いが出されている。

7月25日には、次の採集地の小樽、札幌に向かうが函館の臨海実験場は8月17日北海道を去るまで使用されていた。

#### ・矢田部良吉

(1851年~1899年)

1871年(明治4年)に米国に渡り翌年コーネル大学で植物学を学ぶ。1877年(明治10年)東京大学初代植物学教授となる。



矢田部良吉

#### ・種田織三

(1856年~1914年)

郷土の館藩出身である。明治9年に東京開成学校予科を出た。

東京大学予科に進まず、モースの助手兼通訳としてモースの採集旅行に同行した。モースには無くてはならない人であった。



種田織三

明治18年に東大を去った後は、中学校、師範学校の校長職を歴任、教育の世界に名を残す。

晩年は旧上磯町に移り大正3年に死去した。

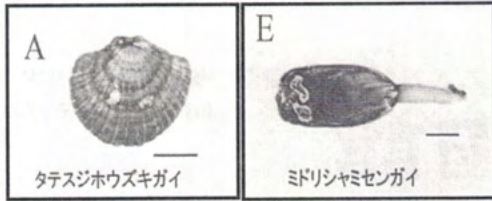


五島軒会場での発表者

・モースを日本に誘った腕足類

モースは進化論の観点から腕足動物を研究対象に選び、日本には腕足動物の種類が多いことを知り来日したのである。

(函館近海の腕足類)



その他、カメホウズキチョウチン、クチバシチョウチンガイなどが採集されている。

・開拓使函館支庁仮博物館

(現在の旧函館博物館1号)



開拓使函館支庁仮博物館の建物が落成したのは明治11年7月である。その時期たまたま文部省の命により標本採集に訪れたモースと矢田部良吉一行に、開拓使の役人は、さっそくモースと矢田部

を開催準備中の博物館に案内し、陳列の仕方や保存、名札の付け方などすべてについて指導を受けたのである。

函館博物館の基盤を築いたのは、モースと矢田部によるものであった。

旧函館博物館1号には、矢田部が館長を務めていた教育博物館ゆかりの標本陳列棚や標本ビンなどを見ることができる。教育博物館は大正12年の関東大震災で建物、資料のすべてを失っている。



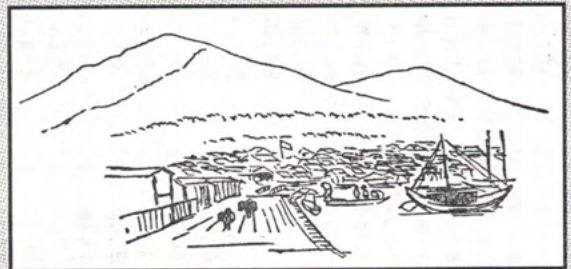
3. モースが描いた明治11年当時の函館

モースのスケッチ341

往来から見た街の外観図(函館、西部地区の街並み) 第1次原画

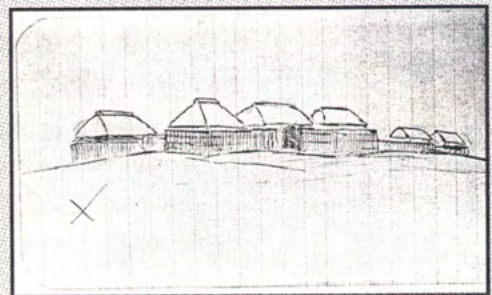


『日本その日その日』収載



モースのスケッチ342

漁夫の家屋、函館、エゾ (竹で編んだ垣根で強風を防ぐ漁夫の家) 第1次原図



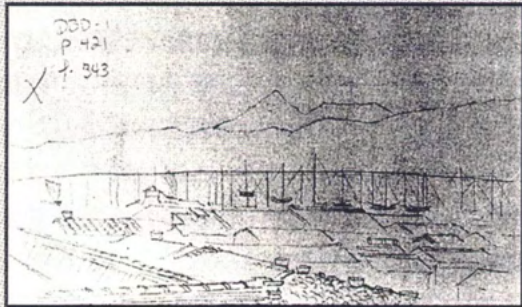
『日本その日その日』収載



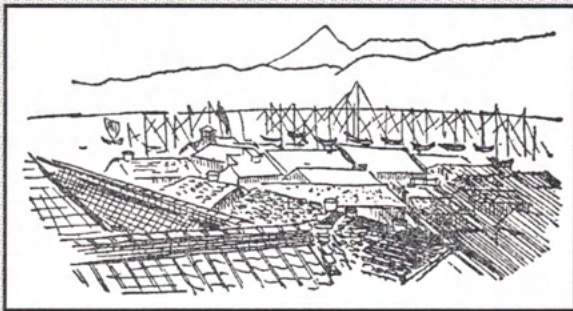
モースのスケッチ343

港の景色 (モースの部屋から見た函館の街並みと駒ヶ岳)

第1次原図



『日本その日その日』 収載



モースのスケッチ350

函館船改所 (この右半分がモースの実験所) 第1次原図

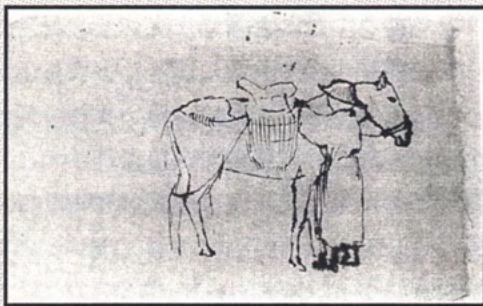


『日本その日その日』 収載

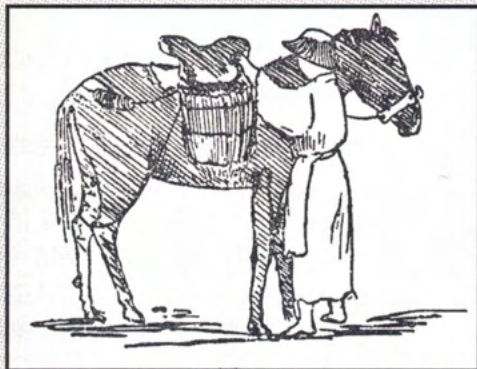


モースのスケッチ347

女、馬 (道路工事の土を馬で運ぶ女作業員) 第1次原図

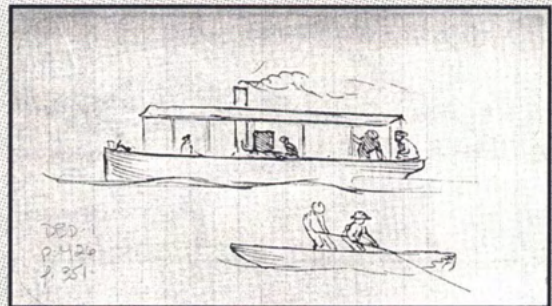


『日本その日その日』 収載

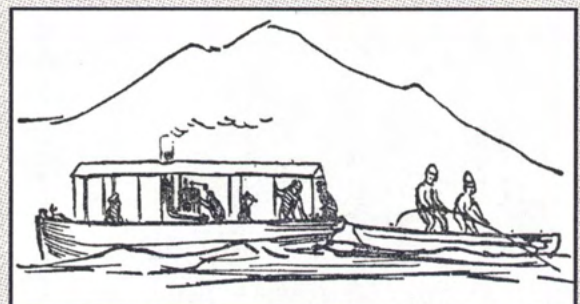


モースのスケッチ351

標本採集のための蒸気船とかき網舟 第1次原図



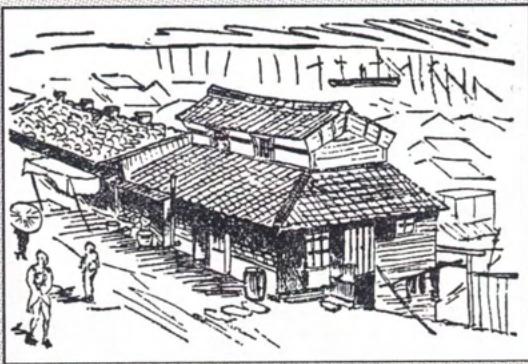
『日本その日その日』 収載



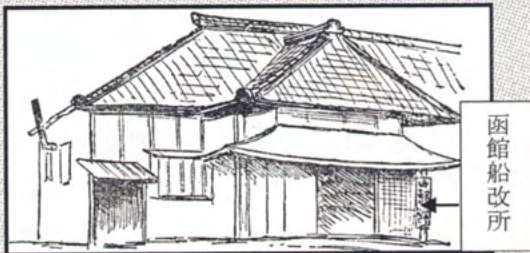
モースのスケッチ355  
古い家屋、集中防火設備  
第1次原図



『日本その日その日』収載



モースのスケッチ423  
函館船改所（船改所＝古い日本の税関）  
（看板上にモースが書いた「函館船改所」の文字）  
『日本その日その日』収載



函館船改所

モースのスケッチ424  
モースの宿泊所となったデンマーク領事館  
『日本その日その日』収載



#### 4. 函館でモースとの関わりで

##### 忘れてはならない人達

◆石川千代松  
(1860年～1935年)



東京大学農学部教授。モースの高弟で講義を筆記した。『動物進化論』を出版し、進化論を初めて体系的に紹介した。長男の欣一は昭和4年に初めて『Japan Day by Day』を訳し出版した。昭和5年7月16日から一週間「モース・平瀬記念会」を開催した際に、岡田健蔵の招聘で来函した。

##### ◆函館博物館初代看守長渡辺章三

明治11年来函中のモース一行に開拓使は2名の博物学修行の役人を付けている。その一人の名前が渡辺章三と言ひ函館仮博物場の創設から大正2年まで看守長として函館博物館に在籍の記録がある。彼こそモースらに直接博物学の指導を受け、その思想で標本類を守り続け現在の市立函館博物館に受け継いだ、函館博物館の父と称してもいい人物である。だが渡辺章三についての手掛かりがなく調査は行き詰まっている。

##### ◆市立函館図書館初代館長岡田健蔵

昭和52年のモース来日100年を機に生物学・博物学及びモースが先鞭をつけた考古学・人類学・民俗学等の分野から日本滞在中のモースに関する多くの研究書が出版されたことや、モースがアメリカに持ち帰った日本民具の里帰り展が日本各地で何度か開かれ、なかでも大阪万国博の跡地に出来た国立民族学博物館が平成2年9月から12月と4ヶ月にも渡って開いた『海を渡った明治の民具モース・コレクション展』等によりモースが私達により身近に知られるようになり、モース・ブームと呼ばれた時があった。

ところが函館では、半世紀も前の昭和5年に全市を挙げた「モース」ブームがあったのである。

それは「モース・平瀬記念会」と称するもので、市

※) モースは左右の手で別々の文章や絵を描くことができる両手両利きであった。掲載されたスケッチも両手を使って描かれて、普通の人より手早くスケッチを終えることが出来た。

立函館図書館初代館長岡田健蔵氏の呼びかけにより、両氏没後5年を記念して行われた展覧会と講演会のことである。

市立函館図書館には、この企画に全面的に協力してくれたモースの弟子である東京帝国大学名誉教授の石川千代松氏による昭和5年7月17日の講演「モース先生に就いて」の記録原稿と書簡が保管されている。

この外にも岡田館長とこの企画参加について交わした貴重な書簡類がある。それはモースの直接の弟子であった東京女子高等師範学校名誉教授で貝類研究の世界的権威者であった岩川友太郎氏のものや京都で貝類博物館を開いていた平瀬与一郎氏のご子息でかつてモースが在籍した東京帝国大学動物学教室の大学院に学んだ貝類専門家の平瀬信太郎氏のもの等である。

中でも今となつては、大変貴重なモース寄贈の貝類展示資料である「モース先生収集函館付近貝類目録・函館水産陳列場所蔵」という貝類展覧会関係書類も残されている。

以上のような函館市を挙げた今流で言うモース・イベントを約1週間に渡り二面・三面を使い大々的に報じた「函館新聞」や「函館毎日新聞」を見るにつけ、今更ながら函館の知恵袋と称された岡田館長の時代を先駆けた企画に目を見張る思いは私だけではないように思う。

岡田館長のお陰で当時の函館市民は、モースが函館近郊で採集したという貝類標本や弟子連の持つ貴重なモース遺品等を見ることが出来た。その上モース一行とは別行動であったとはいえ、同じ明治11年7月13日横浜から同じ連絡船で北海道旅行に来たというモースの高弟石川千代松氏から直接「モース先生に就いて」の講演までも聴くことが出来たのである。

モースの弟子が存命のこの頃でも動物学会等に関係する人々の集まり以外で、モースの人徳をしのび、全市民を挙げてイベントを持ったという他所の記録は見えていない。

## 5. 140年ほど前にモースが見た日本人

モースは、約二年間の日本滞在で日本国と日本人を大変好きになっている。滞在記である『日本その日その日』の中から幾つかを拾って紹介したい。

- 日本人はとても正直である。
- 貧しい人々も、礼儀正しく、思いやりを持つ。

- 日本人はきれい好きな国民だ。
- 日本中どこにも落書きの跡がない。
- 日本人ほど自然を愛する国民はいない。
- 日本の子供ほど両親を敬愛し、老人を尊敬するものは世界中どこを探してもいない。汝の父と母を敬え、これは日本人に深くしみこんだ特性である。
- 日本ほど子供が大切に扱われている国はない。
- 子供はみんな背中に赤ん坊をしょっている。

このモースの原著『Japan Day by Day』は、彼が79歳の大正6年、アメリカ人に日本を理解させるために出版されたものだという。我が国では石川欣一（モースの高弟石川千代松の子息）訳として昭和4年に出版され、現在でも平凡社の東洋文庫で入手することが出来る。

## 6. おわりに

モースが愛した140年ほど前の我々の先祖の生き方とその心に触れた時、あなたもきっと幸せな心になり、モースが好きになります！

以上で私が調べて分かった（モースと函館の関わり）についてのご報告は終わります。

本日モースのご縁でお集まりの皆様へ『モースの贈り物』という本に書かれている一文をプレゼントさせていただきます。

モースほど日本を愛した外国人は少ない。“この国は近代化の波を前に大切なものが失われてゆく”変わっていく日本を見るに忍びず、帰国後モースは87歳で没するまで、再び日本を訪れることはなかった。しかしモースは現代の私達に大きな“贈り物”を残したのである。モースは、彼の愛した日本を、失われた民具の中に閉じ込め残した。古きよき時代の日本人の“心”さえ残そうとしたのである。

引用文献：鶴沼わか編著【モースの見た北海道】



# 「おまけ」で「おまけCD」を聴くの巻

会員 佐野幸治

## 1 発表にあたって

昔から色々な「おまけ」がありました。「おまけ」は時代の移り変わりとともに様々な「モノ」や「カタチ」に変えながらも、長い歴史の中で一つの文化を形成してきました。

その中であって、「されどおまけ」、グリコをはじめ、ロッテやブルボンなど、チョコレートなどに「おまけ」として付いた「おまけCD」や「お菓子CD」といわれるものが数多くあります。

見ても聴いても楽しい、こんな「おまけ」もあることを知ってもらいながら、合わせて「博物のいろいろ」を考えてみる機会になることを願いながら、色々な「おまけCD」の世界を取り上げることとしました。

これら「おまけCD」は、特に昭和30年代から昭和60年代にかけて、テレビの普及とともにレコード音楽文化の中でも大きな役割を果たした、ドーナツ盤レコードやソノシートのオリジナル音源をCDに使用したもので、更に発売当時の懐かしいジャケットも復刻するなど、ドーナツ盤文化の再来を思わせるものです。特に戦後生まれの私などは、ドーナツ盤とともに歩んできたと言っても過言ではないと思っています。

そのような思いから、色々な「おまけCD」を紹介するとともに、心に残る懐かしい曲を聴きながら、「おまけCD」を通じてそれぞれの時代時代に思いを馳せ、ドーナツ盤文化へタイムスリップして見ることにしました。また、聴く装置についても出来る限り「おまけ」でと、スピーカーとアンプは共に雑誌の付録として付いたものを使用することとして、テーマを『「おまけ」で「おまけCD」を聴くの巻』としました。

そして、「おまけは文化」ということで、当日の「おまけ」として、「函館の音」をテーマにした函館の音楽文化の一端にも触れてみました。

## 2 発表内容、テーマは『「おまけ」で

「おまけCD」を聴くの巻』

では、発表した内容について報告させていただきますが、今回は様々な「おまけ」や色々な「おまけCD」を見てみることに重点をおくこととしたことから、プロジェクターの画面数は、写真部分140画面、字幕部分69画面で合計209画面と相当な量になりました。



講演する発表者

そのため、プロジェクターを担当して頂きました木村さんには多大なご苦勞をおかけしました。更に当日ご参加の方々も、目まぐるしく画面が変わり、読む余裕もなかったのではないかと、大変心苦しく思っております。そのため、字幕部分は特に参考になるようなものでもありませんが、出来る限り記載しておきたいと思います。また、CDの機械操作のため時間も超過となり、貴重な時間を使わせて頂いたことに感謝申し上げます。

ということで、以下、順を追いながら発表内容を綴っていきたいと思います。

### ○ その1 始めに

「おまけ」で「おまけCD」を聴くの巻、というテーマですが、私はこの「おまけ」という言葉が大好きでこんなテーマにしてしまいました。

昔から色々な「おまけ」がありました。「たかがおまけ」と言われますが、「おまけ」は一つの文化圏を作ってきました。そんな中で、お菓子などに「おまけ」として付いた「おまけCD」と呼ばれるものがあります。今回はそれらを中心に紹介し

ながら、「おまけは楽しい文化」でもある、ということを少しでも感じてもらえればと思います。

研究発表などというようなものでもないので、気楽にお付き合い願えればと思います。

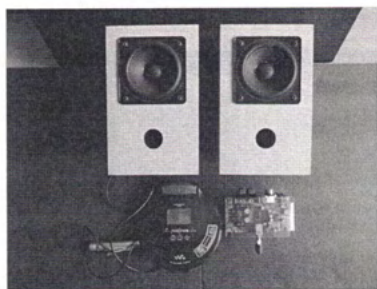
まず、雑誌の付録CDから1曲聴きます。曲名は、モーツァルト作曲「歌劇 フィガロの結婚序曲」です。演奏は、関西フィルハーモニー管弦楽団、指揮は、オーギュスタン・デュメイです。

このCDは、雑誌「レコード芸術(音楽之友社)」2011年11月号の付録です。(雑誌「レコード芸術」は1952年(昭和27年)創刊の月刊誌です)

♪演奏♪

### ○ その2 今日のテーマについて

「おまけ」では、スピーカー(部品組立)とアンプは共に雑誌「ステレオ(音楽之友社)」の付録のことで(雑誌「ステレオ」は1963年(昭和38年)創刊の月刊誌です)。



付属のスピーカー・アンプ



グリコの「おまけCD」

また、「おまけCD」とは、チョコレートなどに「おまけ」として付いたCDや本の付録のCDのことです。

それでは早速はじめましょう。始めに少し「おまけ」に関わる話、その後に色々な「おまけ」や「おまけCD」

を見て、「おまけCD」を聴いて、序でに「函館の音」を少し紹介して、最後に「まとめ」としたいと思います。

### ○ その3 「おまけ」は販売戦略の産物

色々な「おまけ」もそうなのですが、「おまけCD」

D」のほとんどは、レコード発売当時の社会背景などが色々紹介されたものが入っていて、その頃のことの方が良く分かります。それらを手にとって見る度に「おまけ」は「時代を映す鏡」、「タイムカプセル」であるといつも思います。

一方、売る側もそういうコンセプトが大きな「売り」の一つになっているようです。

「おまけ」のほとんどは販売戦略が目的でありませんが、100個とか200個に一つしか出ないようなものがあつたりします。そのため、大いに射幸心を煽ることにもなり、「不当景品類及び不当表示防止法」という法律の規制対象になっています。昔、ビックリマンチョコ(シール入りお菓子)というのがありましたが、公正取引委員会から勧告を受けた実例があるそうです。

また、私の場合で言いますと、音楽を例にとりますと、1人の作曲家の曲を全部聴きたい、揃えたいという願望があります。これを人は「コンプリート願望」と言うのだそうですが、「おまけCD」のほとんどは中身が分からない「ブラインド」と言われるもので、全種揃えるとなると至難の技であります。何がでるか分からないため、コンプリートにしようと戦略にはまる結果になります。はまりました。

### ○ その4 「おまけ」にも立派な歴史

ということですが、前段の話だけでは「博物館友の会」的ではないので、専門的なことは専門家にまかせるとしても、「おまけ」の歴史については少し触れておきたいと思います。

まず「おまけ」という言葉についてですが、今はスーパーではパックで売っていますが、昔はパックではなくほとんど量り売りでした。お店で「まけてよ」と言って「まけて」もらったことがあると思います。お店とお客さんのやりとりで、お店が「まける」ということから、「負ける」が語源とされています。

大阪商人の間では古くから使われていたようですが、「おまけ」が辞書に登場するのは戦後になってからだそうです。

また、「おまけ」のルーツについても少しですが

調べてみました。

実際に品物を付けた「おまけ」のルーツとしては、江戸時代後期の文政年間（1818年～1830年）に、富山の置き薬屋がお得意様に「土産品」などとして配った「売薬版画」と言われています。

これは、浮世絵を元にした多色刷りのもので、主に縦30センチ、横12センチくらいのもので、当時は歌舞伎や相撲の絵に人気あったようです。

昭和の時代に入り、印刷技術の進歩で衰退し、当時、富山で流行っていた「紙風船」に変わっていったそうです。いずれも紙製品のため持ち運びが便利だったようです。

ということで、富山の置き薬屋は「おまけ商法」の元祖と言われています。

また、富山では毎年「売薬版画」の特別展などが開催されているそうです。

次に、「おまけ」と言えばやはり「グリコ」に挨拶しておかなければなりません。1919年（大正8年）に牡蠣の栄養素グリコーゲンを使ってキャラメルを作りました。これが「グリコ」の名前の由来になっているそうです。

1922年（大正11年）に販売開始して「グリコ」がデビューしますが、その当時は、森永製菓と明治製菓が市場を独占していて、何とか売り上げを伸ばそうと、「グリコ」は最初カラーカードなどを「おまけ」として入れていましたが、1927年（昭和2年）に本格的にメンコなどの豆玩具を入れます。「おもちゃ付き栄養菓子グリコ」の誕生です。これは、日本の近代食品産業最初の「食玩（玩具付食品）」と言われています。

それから、「付録」についても少し触れておきたいと思います。「付録」とは、「文章の参考や補足のための書籍に付随した物品」との定義がありますが、一種の「おまけ」と考えられています。

因みに、最初の付録としては、1890年（明治23年）に「小国民」という少年雑誌に付いた「すごろく」だそうです。1906年（明治39年）には「少女界」という少女雑誌にも「すごろく」が付いたそうです。「付録」という言葉は明治の終わり頃には定着していたようであり、一時期「おまけ」とも言われていたようです。

ということで、「おまけ」とは、「値引き」ということと「品物をサービスとして付ける」の大きくは二つの意味になると思います。

「おまけ」も時代とともに変化してきており、サービス券やポイントカードなど多様化、今やコンビニもカード、正に生活密着型「おまけ」の時代になりました。

#### ○ その5 色々な「おまけ」をしてみる

ここからは色々な「おまけ」を見ていくことにしますが、ほとんどは2003年から2005年にかけてコンビニで手にしたものです。なぜコンビニかということですが、日本にコンビニが出来たのは1973年から74年にかけてで、因みに、セブンイレブンは1974年の5月に1号店が開店されており、ほぼ30年という節目でコンビニも成熟し、色々なキャンペーンとか限定発売といったことが盛んに行われていた時期でもありました。

特にグリコの「おまけ付き」商品や飲料水のボトルキャップおまけというのが色々あったようです。ここでは当日の発表会で列記した、「おまけ」の写真を紹介することにします。



グリコの「おまけ」復刻版

##### ①グリコの「おまけ」。

昔のグリコの「おまけ」を復刻したもの（YS-11、ナナハンバイク、ナショナルの自転車など）。

##### ②グリコのおまけ「グリコえほん」。

グリコの「おまけ」で、小学館の絵本を忠実に豆本にしたもの（「いっすんぼうし」、「ももたろう」、「はたらくくるま」など）。

##### ③グリコのおまけ「思い出のマガジン」。

グリコの「おまけ」で、昔の雑誌をそのまま超ミニ本にしたもので、内容もそのまま、付録も超ミニ（「平凡」「少年画報」「鉄道ファ



ン」「鉄人28号」など)。

- ④サントリーBOSSの「おまけ」。  
缶コーヒーの「おまけ」で「SLフィギュア」という模型(D51、石炭車、貨物車など)。
- ⑤サントリー 缶コーヒーの「おまけ」。  
「ヤマハバイクコレクション」という、古いモデルを集めたもので本格的金属製。
- ⑥ペプシコーラペットボトルの「おまけ」。  
「スカイラインミニカーコレクション」という、歴代のスカイラインを集めたものでこれも金属製。
- ⑦伊藤園 おーいお茶の「おまけ」。  
旅客機のダイキャストモデル(ジャンボ、トライスターなど)。
- ⑧コカコーラペットボトルの「おまけ」。  
懐かしい「ルパン三世フィギュア」(ルパン三世、銭形警部など)。
- ⑨発泡酒「麦とホップ」抽選景品。  
グラスとコースターのセットが景品で、グラスに注ぐとコースターから田村正和さんが「ごゆっくり、ビールとお間違えください」としゃべります。

以上、紹介しましたが、すべての種類が揃っているわけではありません(念のため)。という訳で、「おまけ」欲しさに、缶コーヒーとコーラばかり飲んでいました。

#### ○ その6 色々な「おまけCD」をしてみる

ここからはメインの「おまけCD」の紹介に移りますが、当日はそれぞれジャケットの集合写真などで見ていただきましたが、ここでは、種類や発売年、概要など、字幕で紹介した部分を簡単に記載しておきたいと思います。なお、当日参加された方々には「おまけ」として「おまけCD曲目一覧」をお配りしました。

「おまけCD」はほとんどが8センチのシングルCDと呼ばれるものです。音楽の伝達媒体はレコードからCDへと大きく変わりました。そこで、それらディスクの大きさなどを比べて見ておきたいと思います。

(当日は写真で紹介しました。)

レコードは、30センチ、25センチ、17センチそしてドーナツ盤とほぼ4種類、ソノシートは昔、本の付録としてよく付きました。そのほか、8盤レコードというのがありますが、昔の朝日ソノラマ(アニメソングなど)を8センチのレコードにしたもので、専用のプレーヤーで聴きます。CDは、12センチと8センチの2種類あります。

因みに、信号の読み取り方式はレコードとCDは全く逆で、レコードは外側から内側へ一定の速度で進みますが、CDは内側から外側へ段々と遅くなります。以下、順に紹介します。

- ①グリコ「タイムスリップグリコ 青春のメロディーチョコレート」第1弾。  
2004年発売、チョコレートの「おまけCD」全22種(S42～S59の曲)。
- ②グリコ「タイムスリップグリコ 青春のメロディーチョコレート」第2弾。  
2004年発売、チョコレートの「おまけCD」全25種(S37～S59の曲)。
- ③グリコ「タイムスリップグリコ グループサウンズ編」。  
2005年発売、チョコレートの「おまけCD」全15種。昭和40年代のグループサウンズ全盛期の12グループのヒット曲を集めているもの。
- ④ロッテ「ロッテ歌のアルバム」。  
2005年発売ガーナミルクチョコレートの「おまけCD」全11種(S36～S47の曲)。  
全種類に玉置宏さんの「一週間のごぶさたでした」のナレーション入り。
- ⑤タカラ「昭和おもひで歌謡」。  
2005年発売入浴剤(ジャスミンの香り)の「おまけCD」全10種(S40年代の曲)。
- ⑥ブルボン「ポップスの巨人たち80年代のポップス編」。  
2004年発売クッキーの「おまけCD」全9種、すべて2曲入り、1980年代のヒット曲集
- ⑦ブルボン「ポップスの巨人たちフォーク・ニューミュージック編」。  
2004年発売クッキーの「おまけCD」全9種、すべて2曲入り、1970年代のヒット曲集。
- ⑧ドリームズ・カム・トゥルー「ピンク・レデ

イ ヒットナンバーコレクション」。  
2004年発売、チュウインガムの「おまけCD」全10種。

1970年代のピンク・レディのヒット曲集、CDレーベルはすべて色違いです。

⑨ブルボン「アイドルコレクション」。  
2005年発売、ウエハースの「おまけCD」全10種、すべて2曲入り。

1980年代のアイドルと言われた人たちのヒット曲を集めたもの。

⑩カバヤ食品「メモリータイム 懐かしのアメリカンポップス編」。  
2004年発売、チュウインガムの「おまけCD」全13種、すべて2曲入り。

1950年代から60年代中心の曲でモノラルもあり、12センチCD。

⑪ブルボン「懐かしのオールナイトニッポンキャンデー」。  
2005年発売、キャンディの「おまけCD」全8種。1967年（昭和42年）に放送開始のニッポン放送ラジオ深夜番組「オールナイトニッポン」を再現、パーソナリティ8人のトークと歌を収録した珍しいCD。

⑫「おまけCD」アニメソング編6シリーズ全70種。日本のアニメ文化の歴史を主題歌で綴る、といった趣のあるアニメソング集です。ラムネ菓子やキャンディの「おまけCD」で、特に「お菓子CD」と呼ばれるもの。

NO1バンダイ「なつかしのヒーロー&ヒロインヒット曲集」第1弾～第3弾。  
2004年～5年発売、ラムネ菓子の「おまけCD」各全12種 計36種。



「おまけCD」アニメ編

NO2バンダイ「仮面ライダーズスペシャル」歴代の仮面ライダー主題歌集。

2005年発売、ラムネ菓子の

「おまけCD」全12種。

NO3バンダイ「ドラえもんヒット曲集」ドラえもんの歌シリーズ。

2005年発売、キャンディの「おまけCD」全12種。

NO4ブルボン「懐かしのアニメソング」日本の代表的アニメの主題歌集。

2005年発売、レモンキャンディの「おまけCD」全10種。

ということで、色々な「おまけCD」を紹介しました。

○ その7 「おまけCD」は、「うたはよにつれ よはうたにつれ」

「おまけCD」はレコード復刻版、そのほとんどはCDへ移行する前の1960年代から70年代のドーナツ盤レコードを中心に、当時のジャケットも復刻され、歌も多彩、まさに歌のパラダイスと言えます。

ということで、「おまけCD」はドーナツ盤レコードの甦り、そこから聞こえる歌は、その時々世相まで映しだしてくれる鏡でもあります。

「うたはよにつれ よはうたにつれ」を実感させてくれるものです。

○ その8 「おまけCD」を聴く

ここからは、紹介した「おまけCD」の中から4曲を聴いていきます。ここでは、それぞれの曲を字幕などで紹介した事柄を記述していきます。

まず1曲目は、グリコ「タイムスリップグリコ青春のメロディーチョコレート」から、昭和43年のヒット曲、

ザ・タイガース「花の首飾り」です。

作曲は、グループの名付け親でもある、すぎやまこういちさんでした。また、作



ザ・タイガース「花の首飾り」

詞は八雲町出身の菅原房子さんという当時女子高校生でした。昭和43年、月刊誌「明星」で詩の公募があり、約13万編から選ばれたというものです。補作詩は、なかにし礼さんでした。先日、元ドラママーでありました瞳みのるさんが八雲町の観光大使になったという記事がありました。

♪演奏♪

2曲目は、ロッテ「ロッテ歌のアルバム」から、伊東ゆかりさんの「小指の思い出」です。この曲は昭和42年のレコード発売です。「ロッテ歌のアルバム」は、昭和33年にTBSで放送開始、司会は玉置宏さん、「一週間のごぶさたでした」は当時、流行語にもなりました。また、玉置宏さんは、横浜市の「にぎわい座」という芸能センターの初代館長（2代目桂歌丸）でもありました。ナレーションは「おまけCD」制作のために新規録音されたものです。



伊東ゆかり「小指の思い出」

また、玉置宏さんは、横浜市の「にぎわい座」という芸能センターの初代館長（2代目桂歌丸）でもありました。ナレーションは「おまけCD」制作のために新規録音されたものです。

♪演奏♪

3曲目は、タカラ「昭和おもひで歌謡」から、森繁久彌さんで「しれとこ旅情」です。

レコード発売は昭和40年のことでした。この曲は、昭和35年に「地の涯に生きるもの」という映画撮影の際に羅臼町で作詞・作曲されており、「さらば羅臼よ」が原曲だそうです。森繁久彌さんは函館とも縁が深く、五島軒と「蘆火野」はご存じのとおりです。



森繁久彌「しれとこ旅情」

また、函館

また、函館

に来たときは、谷地頭温泉の旅館「池の端」が定宿だったそうです。ここには掛け軸として書が残されています。

「血しぶきの あともむなしき 五稜郭 有史  
八哀し 草いきれのみ 久彌」と。♪演奏♪

4曲目は、カバヤ食品「メモリータイム 懐かしのアメリカンポップス編」から、昭和40年のレコード発売、サイモン&ガーファンクル「サウンド・オブ・サイレンス」を聴きます。映画「卒業」のテーマでもあり、昭和43年頃に函館でも公開されており、当時彩華デパートの地下に「名画座」という映画館がありました。私はここでその映画を見ました。

このレコード発売の翌年、昭和41年に博物館本館がオープンしています。

♪演奏♪



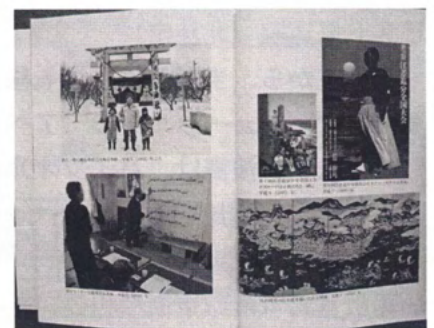
サウンド・オブ・サイレンス

次に、単行本の付録のCDからも1曲、「江差追分」です。これは2006年に北海道新聞社から発行の「たば風に唄う・江差追分・青坂満」（著・松村隆）という本の付録のCDです。昭和57年に青坂満さんが録音したものです。

「江差追分」は、信州追分宿（軽井沢）の馬子唄が馬子たちにより越後へ、さらに北前船の船頭たちにより「舟歌」として江差へ伝えられたと言われています。

みなさんご存じのとおりです。

唄っている青坂満さんは江差の鷗島に生まれました。昭和43年に36歳で第6回江



「たば風に唄う」青坂満

差迫分全国大会優勝を果たし、平成17年に北海道文化賞、北海道新聞文化賞を受賞しました。

♪演奏♪

○その9 ついでにおまけ「函館の音」と題して

終りの時間が近づいてきました。ついでにおまけということで、函館の音楽文化にちょっと触れておきたいと思います。

「FMいるか」が開局10周年を記念し、2002年に制作した「函館のパイプオルガンII」というCDがあります。

函館は日本で初めて無伴奏の混成四部合唱が歌われた街といわれています。1860年（万延元年）、元町のロシア領事館付属聖堂（ハリストス正教会）でした。今で言う落成式の式典だったようです。そんな街函館は多くの教会がたたずむ街でもあり



「函館のパイプオルガンII」CD

ます。このCDには、トラピスト修道院や函館の教会8か所のパイプオルガンの演奏が収録されています。以下8か所のパイプオルガ

ンです。（当日写真で紹介）

- ①花園キリスト教会（美原）
- ②日本キリスト教会相生教会（本町）
- ③日本キリスト教会千歳教会（松陰町）
- ④遺愛女子高等学校講堂（杉並町）
- ⑤函館聖マリア教会（船見町）
- ⑥日本基督教団函館教会（元町）
- ⑦聖ヨハネ教会（元町）
- ⑧当別トラピスト修道院（北斗市）

この中から、当別トラピスト修道院のパイプオルガンで、シューベルトの「アベ・マリア」を聴いてみます。演奏は、パイプオルガンが吉岡曙生さん（遺愛高校出身）、トランペットが福田善亮さん（函館東高校出身・札幌首席奏者）、録音担当は加藤敬さん（函館東高校出身）と正に函館の音です。♪演奏♪

次に、珍しいレコードがありますので紹介だけしておきたいと思います。

昭和56年に、青函局吹奏楽団結成30周年記念として制作されたオリジナルのLPレコードで、同年1月26日に函館市民会館で録音されたもので、600枚プレスされ、うち300枚が青函局で一般販売されました。青函局吹奏楽団は昭和26年に道南唯一の職場吹奏楽団として誕生しました。全12曲が収録され、この中には、オリジナル作品として、「青函局の歌」と「青函連絡船の歌」の2曲が合唱付きで収録されています（当日は、レコード、当時の新聞記事などを写真で紹介）。



青函局吹奏楽団LPレコード

最後に、「はこだて讃歌」を札幌交響楽団によるオリジナルのオーケストラ版で聴いてみます（レコードから録音したもの）。この曲は、昭和48年の函館市と亀田市の合併を記念して作られましたが、このレコードはHBCが函館放送局開局20周年記念として、札幌交響楽団によりドーナツ盤として制作、当時十字街のヤマコ楽器店で購入したもの。作曲は函館出身で、日本の代表的作曲家の広瀬量平さんですが、広瀬さんは、昭和51年に函館博物館を訪れ、縄文時代の出土品の展示中、石笛と思われるものを吹いて、笛であることを実証したということです。亡くなった平成20年に函館市栄誉賞を受賞しました。♪演奏♪

最後に、「はこだて讃歌」を札幌交響楽団による

オリジナルのオーケストラ版で聴いてみます（レコードから録音したもの）。



はこだて賛歌ドーナツ盤

この曲は、昭和48年の函館市と亀田市の合併を記念して作られましたが、このレコードはHBCが函館放送局開局20周年記念として、札幌交響楽団によりドーナツ盤として制作、当時十字街のヤマコ楽器店で購入したもの。作曲は函館出身で、日本の代表的作曲家の広瀬量平さんですが、広瀬さんは、昭和51年に函館博物館を訪れ、縄文時代の出土品の展示中、石笛と思われるものを吹いて、笛であることを実証したということです。亡くなった平成20年に函館市栄誉賞を受賞しました。♪演奏♪

## ○ その10 まとめ

(当日は、使用した「おまけCD」などを集合写真で紹介)

ということで、「おまけ文化」、そして函館の音楽文化の一端にも触れてみました。



使用した「おまけCD」など

ドーナツ盤レコードの甦りとも言える「おまけCD」も、色々な視点で見ると、人や時代そして「モノ」

など、様々なことが見えてきたり、新しい発見があったり、真に情報の宝庫と言えらと思います。

ドーナツ盤レコードには、ジュークボックス用に真ん中に大きな穴が作られています。

1949年(昭和24年)にアメリカのRCAビクターから発表、日本では1954年(昭和29年)にビクターとコロンビア両社から発表されて以来、戦後復興の昭和30年代から60年代にかけて約30年余りの間、レコード音楽文化の中でも大きな役割を果たしてきました。ジュークボックスは街の賑わいの中心ともなり、正に「ドーナツ盤文化」と言える時代がありました。

色々な「おまけCD」との出会いを通じて、「ドーナツ盤文化」の時代とは、どんな時代であったのだろうか、その時代に思いを馳せ、タイムスリップしてみたいか、もしくはしたら、忘れ去られた時代の片隅が見えてくるかも知れません。「たかがおまけ、されどおまけ」、「おまけは文化」ということを、少しでも感じてもらえたら幸いです。

最後に、明日は博物館でタイムスリップ!! お付き合い、ありがとうございました。



市立函館博物館

## 《参考》

1. 「おまけ」の博物誌 (PHP新書) 北原照久 著。
2. 「たば風に唄う・江差追分・青坂満」(北海道新聞社) 松村隆著。
3. 「北海道洋楽の歩み」(北海道新聞社) 前川公美夫著。

平成27年度 道南の博物館施設等めぐり

(現在計画中)

## 江差町の歴史と文化を訪ねる旅

1. 実施時期 平成27年7月初旬 日帰りのバス旅行

2. 訪れる所と見るポイント

- ① 「江差いにしえ街道」を歩く。(歴まち商店街協同組合理事長の案内)
- ② 「江差追分」を聞いて、追分会館を見学する。(追分師匠の歌と追分資料館、山車会館をみる)
- ③ 開陽丸を訪ねて、海中考古学を学ぶ。(開陽丸館長か教委から説明)
- ④ 江差町の歴史資料館を訪ねて(江差教委の学芸員に聞く)

(現在計画中ですが、興味深い内容を取りそろえ中です。)

## 平成26年度の主な事業（報告）

### 1. 「友の会通信」・「友の会会報」の発行

- (1) 友の会通信 第39号（平成26年9月10日）、第40号（平成26年12月10日）
- (2) 友の会会報 第63号（平成27年3月31日）

### 2. 例会・講座等の開催

- (1) 講演会（総会時開催）平成26年5月31日（土）五島軒本店 参加者35名  
演題 函館とアイヌ文化  
講師 市立函館博物館 学芸員 大矢 京右 氏
- (2) 道南の博物館施設等めぐり（八雲町ほか歴史散歩）平成26年7月5日 参加者29名  
八雲町郷土資料館、八雲町木彫り熊資料館、ピリカ旧石器文化館、瀬棚郷土館
- (3) 市立函館博物館特別展の見学会  
「五稜郭築造と箱館戦争」平成26年7月17日（木）参加者16名  
解説者 市立函館博物館 学芸員 保科 智治 氏
- (4) 古都奈良・京都を訪ねる旅（研修旅行）の実施  
平成26年10月21日（火）～23日（木）参加者9名  
奈良国立博物館、平城宮跡資料館、大極殿、法隆寺、東大寺、興福寺  
京都国立博物館、二条城、維新ミュージアム霊山歴史館
- (5) 会員発表会 平成26年10月4日（土）五島軒本店 参加者34名  
ア テーマ 『モースの見た函館』 発表者 鶴沼 ワカ 氏  
イ テーマ 『おまけ』で『おまけCD』を聴くの巻 発表者 佐野 幸治 氏
- (6) 市立函館博物館企画展の見学  
「新収蔵資料」展 平成26年9月20日（土）～11月3日（月）

### 3. 博物館事業の後援・協力

特別展、企画展等の後援および協力

現在、次の企業・団体から協賛を頂いております。改めて御礼申し上げます。

- ・(株)エスイーシー ・金森商船(株) ・(株)建築企画山内事務所 ・(株)五島軒 ・五稜郭タワー(株)
- ・(株)佐藤公郎建築設計事務所 ・(有)三和印刷 ・(株)千秋庵総本家 ・(財)相馬報恩会 ・名美興業(株)

(敬称略・50音順)

市立函館博物館友の会会報 No.63

発行所 市立函館博物館友の会

印刷所 (有)三和印刷

電話 0138(45)0845

平成27年3月31日 発行

函館市末広町19-15 郵便番号040-0053

市立函館博物館郷土資料館内 電話0138(23)3095

振替口座 函館02650-0-2216